

仏智足流生起次第「普賢成就法」に おける曼荼羅について

金 本 拓 士

従来、『秘密集会タントラ (GS)』を取り扱う際、この経典を奉ずる二大流派(聖者、仏智足 (JP) 流)¹⁾のうち、聖者流の注釈書等を中心にして論ぜられてきた²⁾。しかし、GS のより正確な理解を持つためには、他流の注釈書類をも等しく考察する必要があるように思われる。本稿は、二流派各々、生起次第及び曼荼羅が伝承されているなかで、JP 流の生起次第 Samantabhadrasādhana (SS)³⁾を中心とし、その注釈書である Śrīphalavajra (Śph) の Samantabhadrasādhana-vṛtti⁴⁾、Thagana (Th) の Śrisamantabhadrasādhanavṛtti⁵⁾ を参照しながら、SS より生起される JP 流十九尊曼荼羅の特徴について言及するものである。

SS は GS の引用偈を含めて 165 偈で構成されている。これを三種三摩地⁶⁾によって分けるならば、第一加行三摩地 (I) (第 1 偈—第 69 偈)⁷⁾、第二曼荼羅最勝王三摩地 (II) (第 70 偈—第 108 偈)⁸⁾、第三羯磨最勝王三摩地 (III) (第 109 偈—第 165 偈)⁹⁾ となる。三種三摩地のなかで、生起される十九尊の色相、手相等について具体的に記述されるのは II であり、各尊の種子に関しては I において説かれている。これらを注釈書に依りながらまとめると表のようになる。(表参照)

次に表によっていくつかの特徴を指摘してみたい。まず、一般に言われている JP の十九尊曼荼羅は文殊金剛を中尊とされるが、II に述べられている曼荼羅の中尊は阿閼になっている。そこで文殊金剛はどのような色相を有しているかと言えば、I の第 52, 53 偈において、「すばらしきサフランの色のように赤く、右と左の面は青と白、様々な飾りによって荘嚴されたものの二手は最勝の般若妃を抱き、様相は無量光を有する剣と矢と青ウトバラ華と弓を持つ」¹⁰⁾ と説かれていて、明らかに阿閼の姿と異なっている。しかし阿閼と文殊金剛の関係について Śph は「ヴァジュラドリックと言われ、……文殊金剛と阿閼は同一性と示される」¹¹⁾ と、また、Th は「ヴァジュラドリックと言われる等における心金剛と言われるのは阿閼御自身であり、文殊金剛の御姿で座されるべきであるということに一致する」¹²⁾ と説明しているように、阿閼と文殊金剛を同一性の尊であると示されて

いる。では、**SS** において文殊金剛は如何なる状況で説かれているかと言えば、第 51 偈で「その（諸仏の）すべての光明によって、本尊と一致し化現された牟尼は、無量の心によって（行者の心に）入られ、吉祥なる文殊金剛と称されるものとなった」¹³⁾とされ、第 53 偈に「虚空界すべての曼荼羅の守護者である」¹⁴⁾と説かれる。また、**Th** は「文殊の姿を（行者）自身と観想すべきものである」と注釈しているように、曼荼羅を生起する行者は文殊金剛と一体となるべきことから、十九尊曼荼羅の中尊に文殊金剛を位置付けたのではないかと思われる。

次に、六金剛女（色，声，香，味，触，法）と六菩薩（地藏，金剛手，虚空蔵，世自在，一切除蓋障，普賢）を父母仏として表現することがある¹⁵⁾。しかし、上述の二注釈書に加え、**Jp** の Caturaṅgasādhanopāyikāsamantabhadrā nāma¹⁶⁾、その注釈書である Samantabhadra の Caturaṅgasādhanapāyikāsāramañjarī nāma¹⁷⁾、Vita-pāda の Caturaṅgasādhanopāyikāsamantabhadrā nāma ṭīkā¹⁸⁾ を見る限り、六金剛女と六菩薩との関係について説明しているのは **Śph** のみ¹⁹⁾ であり、他の注釈書には述べられていない。さらに、四忿怒（ヤマーンタカ，アバラージタ，馬頭，甘露軍荼利）と四忿怒妃（ヴェーターリー，アバラージター，ブリクティ，エーカジャーター）との関係についても **Śph** のみが父母仏として説明している²⁰⁾。このことから、十九尊曼荼羅の六金剛女等を父母仏として構成するのは一般的ではないように思われる。

以上のことから、**SS** より生起される **JP** 流十九尊曼荼羅は、**GS** 第一章に見られる十三尊曼荼羅を基本とし、それに六金剛女を加えた曼荼羅であると考えられる。

1) 松長有慶博士「密教の歴史」p. 86. 平楽寺書店。2) 羽田野伯猷博士「Tantric Buddhism における人間存在」東北大学文学部研究年報第 9 号。酒井真典博士「チベット密教教理の研究(一)」国書刊行会。3) P. ed. NO. 2718: Ti 33b³-42b⁵。4) P. ed. NO. 2730: Ti 168a⁷-224a³。5) P. ed. No. 2731: Ti 224a³-274b⁴。6) 酒井同上 P. 12。7) Ti 33⁴-37b¹。8) Ti 37b¹-39b¹。9) Ti 39b¹-42b³。10) Ti 56b¹⁻³。11) Ti 197a⁴-197b¹。12) Ti 247a⁴。13) Ti 56b¹。14) Ti 56b³。15) 田中公明「曼荼羅の歴史と発展について」P. 36. チベット文化研究所。16) P. ed. No. 2719: Ti 42b⁵-51a⁴。17) P. ed. 2732: Ti 274b⁴-330a⁶。18) P. ed. No. 2735: Ti 440b⁸-498a⁶。19) Ti 199b¹⁻⁶。20) Ti 201a³。Samantabhadrasādhanavṛtti の中で da ni mñon par byañ chub pa/ lñaḥi rim gyis bcom ldan ḥdas rdo rje sems dpaḥ bskyed pa gsuñs pa: Ti 184a⁵。という文があり、**Śph** が聖者流と何らかの関係があったかもしれない。さらに、**JP** 流の系譜に **Śph** の名称が出てこない。羽田野同上 P. 7。

尊名	真言	身色	面色	手標	方向	種子	加持	族主
阿闍	Vajradhrik	青	青白赤	金剛, 劍, 蓮華, 宝	中央	HŪṂ	誠, 心	阿闍
毘盧遮那	Jinajik	白	白青赤	輪, 劍, 蓮華, 宝	東	BRUṂ・OM	色, 頭	"
宝生	Ratnachhrik	黄	黄青白	宝, 劍, 蓮華, 輪	南	ĀṂ・SVĀ	受, ヘソ	"
無量光	Ārolik	赤	赤青白	蓮華, 劍, 宝, 輪	西	JRIṂ・ĀH	想, 秘密 蓮華	"
不空成就	Prajādhrik	緑	緑青白	劍, 金剛, 輪, 蓮華	北	KHAM・HĀ	行, 足	"
ローチヤナー	Moharati	白	白青赤	輪, 劍, 蓮華, 宝	東南	LAM	地	毘盧遮那
ヤーヤキ	Dveṣarati	青	青白赤	赤ウトバツ華, 劍, 蓮華, 宝	南西	MĀM	氷	阿闍
パーソダラー	Rāgarati	赤	赤青白	バツ華, 劍, 輪, 宝	西	PAM	火	無量光
ターラー	Vajrarati	黄	黄青白	金ウトバツ華, 劍, 蓮華, 宝	北	TAM	風	不空
色金剛女		白	白青赤	鏡, 劍, 蓮華, 宝	東	JA	色	毘盧遮那
声金剛女		青	青白赤	ゾクナーナ, 劍, 蓮華, 宝	南	HŪṂ	声	阿闍
香金剛女		黄	黄青白	螺貝, 劍, 蓮華, 輪	西	VAM	香	宝生
味金剛女		赤	赤青白	カバツ瓶, 劍, 輪, 宝	北	HO	味	無量光
触金剛女		緑	緑青白	天衣, 劍, 蓮華, 宝	東門の近く	KHAM	触	不空
法界金剛女		白	白青赤	法生印, 劍, 蓮華, 宝	"	RAM	法	阿闍
ヤマーソタカ	Yamāntakrt	青	青白赤	槌, その他阿闍の如し	東			阿闍
アバラージャ	Prajānakrt	白	白青赤	棒, その他毘盧遮那の如し	南			毘盧遮那
馬頭	Padmāntakrt	赤	赤青白	蓮華, その他無量光の如し	西			無量光
甘露軍荼利	Vighāntakrt	青	青白赤	金剛, その他阿闍の如し	北			阿闍